授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	
ビジネス実務	講義	必修　選択

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　前期　後期　通年	２８回　５６時間

［担当教員および実務経験］

星野　和幸

［授業の目的］

一般企業、福祉施設等で勤務する際に必要となる社会人としての意識、組織の構造、言葉遣い等のマナーや接遇、事務作業についての知識を学ぶ。知識習得の証明として、秘書技能検定３級の取得を目指す。

［授業の方法および概要］

・到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。グループワークを活用し、楽しみながら内容の修得度を高める。授業の最後に確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。
・検定前、秘書検定過去問題の答練を行い、検定問題に慣れる。

［授業の到達目標］

・企業団体等の組織に所属する場合の意識や役割を理解できる。
・日常会話レベルで敬語を使用することができる。
・企業団体での基本的な接遇、慶事弔事のマナーを説明できる。
・ビジネス文書について、例を見ながら作成することができる。
・事務・ファイリング作業で使用する、文具機器類の名称・用途を答えることができる。
・郵便(特殊取扱含)等の通信手段について、利用方法や長短所を答えることができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75%)
　・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験による複数回の確認テストにより算出する。
・平常点(25%)
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・藤井充子『この1冊で決める!!秘書検定2・3級合格教本』新星出版社、2022年
・実務技能検定協会『秘書検定3級過去問題集2025年版』早稲田教育出版、2025年

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	職場と人間関係、敬語の種類
2	正しい敬語の使い方、接遇の表現
3	上手な話し方・聞き方、命令・指示の受け方、忠告・注意の受け方
4	苦情対応と断り方、わかりやすい報告と説明、依頼と説得のしかた
5	接遇の心構え、受付と取り次ぎ、受付と取り次ぎのケーススタディ
6	来客応対の常識（案内、席次、茶菓提供、見送り）、電話応対(受け方かけ方)
7	慶事・弔事に関する業務とマナー、贈答のしきたり、上書きと水引の結び方
8	第４章のまとめ、確認テスト①
9	会議の基礎知識、会議の準備、会議直前から会議後までの業務
10	ビジネス文書の基礎知識
11	社内文書の作成
12	社外文書の作成、社外文書・社交文書のきまりごと・慣用表現
13	メモのとり方、グラフの書き方
14	文書の受信・発信、メール・ＦＡＸ送受信、郵便物の発信、「秘」扱い文書
15	ファイリングの基礎知識、名刺の整理、資料の収集と整理、予定表の使い方、 室内環境、オフィスレイアウト、オフィス機器・事務用品
16	第５章のまとめ、確認テスト②
17	秘書の資質① 社会人としての良識を備える、補佐役としての秘書の心掛け 秘書に求められる能力
18	秘書の資質② 秘書にふさわしい身だしなみ・立ち居振る舞い 秘書に求められる人柄
19	職務知識①　秘書と上司の仕事の違い、秘書の職務限界
20	職務知識②　定型業務と非定型業務、上司が不在の場合
21	一般知識①　企業と経営組織、人事・労務、マーケティング
22	一般知識②　会計・財務・税務、金融と経営法務
23	一般知識③　ビジネスに関する用語、カタカナ語と略語
24	第１～３章のまとめ、確認テスト③
25	秘書検定３級過去問題答練①
26	秘書検定３級過去問題答練②
27	秘書検定３級過去問題答練③
28	過去問題の復習、確認テスト④

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	
コミュニケーション	演習	必修　選択
［対象学科・学年・時期］		［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　前期　後期　通年		１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

佐藤　千香

（病院において看護師として勤務）

［授業の目的］

講義や演習を通してコミュニケーションの知識・技術を学び、対人援助の技術を実践できるようになることを目的とする。

［授業の方法および概要］

・演習の前後にテキストやプリントを用いた講義を行う。

・グループワーク等のコミュニケーション演習を実施する。

［授業の到達目標］

・コミュニケーションの定義を説明することができる。

・コミュニケーション力を身に付け、演習を通してコミュニケーション力を向上させることができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)

　・到達目標の修得状況を測るために、複数回の確認テストにより算出する。

・平常点(25％)

　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト

なし

参考文献

・高橋明美・篠原純史『対人援助の技術』ナツメ社

・『コミュニケーション技術』中央法規出版

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	前期オリエンテーション・自己紹介
2	コミュニケーションの基本
3	コミュニケーションの基本技術
4	家族とのコミュニケーション
5	チームのコミュニケーション
6	確認テスト①
7	対人コミュニケーション
8	コミュニケーション支援
9	話し方
10	観察
11	確認テスト②
12	傾聴
13	理解
14	伝える
15	確認テスト③

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
コミュニケーション	演習	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　　前期　後期　通年	１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

佐藤　千香

（病院において看護師として勤務）

［授業の目的］

講義や演習を通してコミュニケーションの知識・技術を学び、対人援助の技術を実践できるようになることを目的とする。

［授業の方法および概要］

・演習の前後にテキストやプリントを用いた講義を行う。

・グループワーク等のコミュニケーション演習を実施する。

［授業の到達目標］

・コミュニケーションの定義を説明することができる。

・コミュニケーション力を身に付け、演習を通してコミュニケーション力を向上させることができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)

　・到達目標の修得状況を測るために、複数回の確認テストにより算出する。

・平常点(25％)

　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト

なし

参考文献

・高橋明美・篠原純史『対人援助の技術』ナツメ社

・『コミュニケーション技術』中央法規出版

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	前期の振り返り
2	話しやすい雰囲気を作る
3	観察
4	傾聴
5	理解
6	確認テスト①
7	伝える
8	情報を整理する①
9	情報を整理する②
10	学習の振り返り
11	確認テスト②
12	発表会（コミュニケーションを通して学んだこと）①
13	発表会（コミュニケーションを通して学んだこと）②
14	発表会（コミュニケーションを通して学んだこと）③
15	確認テスト③

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	
チームビルディング演習	演習	必修　選択

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　前期　後期　通年	１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

星野　和幸

［授業の目的］

チームビルディングの目的や効果を体験的に学ぶことにより、チームの成長と個人の成長の相互作用を理解する。

［授業の方法および概要］

到達目標に沿って、チームをある程度固定してチームビルディングの演習を行い、演習の取り組みや成果を振り返る。

［授業の到達目標］

・チームで共通の目的や目標をもつことができる。
・チームの一員として主体的に行動することができる。
・チームのメンバーの多様性を受け入れることができる。
・チームの一員としてチームのメンバーと協力することができる。
・チームの一員としてチームで成果を上げることができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験による確認テストを実施する。
・平常点(25％)
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

なし

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	チームとは
	チームビルディングとは
	チームビルディング演習①
2	チームビルディング演習②
3	チームビルディング演習③
	確認テスト①
4	チームビルディング演習④
5	チームビルディング演習⑤
6	チームビルディング演習⑥
	確認テスト②
7	チームビルディング演習⑦
8	チームビルディング演習⑧
9	チームビルディング演習⑨
	確認テスト③
10	チームビルディング演習⑩
11	チームビルディング演習⑪
12	チームビルディング演習⑫
	確認テスト③
13	チームビルディング演習⑬
14	チームビルディング演習⑭
15	チームビルディング演習⑮
	確認テスト④

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
アカデミックスキル	講義	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　前期　後期　通年	１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

渡辺　康子

（病院・高齢者施設において介護職員として11.5年勤務）

［授業の目的］

アカデミック・ライティング（大学で必要とされるレポートや卒業論文、研究論文などの文章）に必要な「スキル」と、問の発見、及び、それを深める方法などの「思考力」とを身につけることを目的とする。

［授業の方法および概要］

到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義・演習を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。

［授業の到達目標］

・サンプルレポートを使用し、学生自身の力で読解し、レポートのイメージをつかむ。
・学生が陥りがちな誤りや失敗例から何が問題なのかということに学生自身が「気づく」ことができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験による確認テストを実施する。
・平常点(25％)
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・小川こころ「ゼロから始める文章教室」ナツメ社、2021年
・近藤裕子・由井恭子・春日美穂「失敗から学ぶ　大学生のレポート作成法」ひつじ書房、2023年

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	オリエンテーション
	自分データ作り
2	ライティングスキルの基礎
3	文章の長さ
4	文章のリズム
	確認テスト①
5	５Ｗ１Ｈ
6	接続詞
7	納得させる
8	語彙力
	確認テスト②
9	心を動かす表現
10	文章の〆
11	作文「GWにやったこと」
12	作文をまとめ直す
	確認テスト③
13	セルフレビュー
14	ピアレビュー
15	確認テスト④

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
アカデミックスキル	講義	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　　前期　後期　通年	３０回　６０時間

［担当教員および実務経験］

星野　和幸

［授業の目的］

アカデミック・ライティング（大学で必要とされるレポートや卒業論文、研究論文などの文章）に必要な「スキル」と、問の発見、及び、それを深める方法などの「思考力」とを身につけることを目的とする。また、テーマに沿って資料を検索し、その資料を読解し、引用等で活用するなどの資料活用力を身につけることを目的とする。

［授業の方法および概要］

到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義・演習を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。

［授業の到達目標］

・テーマに沿った資料を探し、入手することができる。
・資料を読解し、その要点の整理、疑問点の洗い出し等を行うことができる。
・事実と意見を分けた文章を作成できる。
・資料を用いて文章を作成する際の引用のルールを説明できる。
・引用及び出典情報を正確に記載した文章を作成できる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75%)
　・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験による確認テストを実施する。
・平常点(25%)
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・小川こころ「ゼロから始める文章教室」ナツメ社、2021年
・近藤裕子・由井恭子・春日美穂「失敗から学ぶ　大学生のレポート作成法」ひつじ書房、2023年
・市古 みどり（著，編集），上岡 真紀子（著），保坂 睦（著）「資料検索入門―レポート・論文を書くために（アカデミック・スキルズ）」慶応義塾大学出版会、2014年

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	述語（述部）を引き出す
2	「主題＋述部」で要約する
3	抽象化
4	応用問題 確認テスト①
5	名詞化力を高める
6	文と文の関係を維持して要約する
7	複数の文で要約する
8	部分要約 確認テスト②
9	対比を整理し、主張と理由を見抜く
10	主張の具体例を要約する
11	長文を要約する①
12	長文を要約する② 確認テスト③
13	長文を要約する③
14	ニュースを要約する
15	確認テスト④
16	資料を探す方法 語や事項を調べる（辞書・辞典・事典、インターネット上の辞書・辞典・事典）
17	図書を探す（大学図書館・公共図書館・国立国会図書館）
18	雑誌論文を探す（国立国会図書館サーチ・CiNii）
19	新聞記事を探す
20	インターネット情報を探す 確認テスト⑤
21	レポート作成のための資料読解 資料を読解する準備をしよう（資料・新聞記事）
22	資料を読解しよう（内容を確認し、要点を整理する、疑問点を整理し、不明点を明らかにする） p70の新聞記事を読み、疑問点や不明点を考えよう
23	資料検索演習
24	引用とは 引用の目的 STEP５
25	引用の際の注意点 STEP４ 確認テスト⑥

26	引用の方法（直接引用の方法） STEP２
27	間接引用の方法 引用で良く使う表現 STEP２
28	出典の示し方 STEP１
29	引用文献・参考文献・注 注の付け方 STEP３
30	確認テスト⑦

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
学習指導	講義	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　前期　後期　通年	１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

井畑　友佳

［授業の目的］

日々の振り返りを実施することで、将来、社会人となるにあたって必要な基本的なマナーやコミュニケーション、スケジュール管理等、自分自身でさまざまな管理ができるようになることを目的とする。

［授業の方法および概要］

到達目標に従い、それぞれ主体的・実践的な学習を行う。

・日々のスケジュール管理・振り返り
・１週間（もしくはある科目）で学習した授業内容のまとめ・報告・発表
・グループワークを通したコミュニケーション能力の向上
・「アクティブ・リコール」の適度な使用

［授業の到達目標］

・自分自身で用意した手帳を使用した日々のスケジュール管理・振り返りを継続することで習慣化できる。
・１週間で学習した授業内容をまとめ、報告・発表することができる。
・積極的なグループワーク参加を通して、コミュニケーション能力の向上を図ることができる。
・「アクティブ・リコール」で学習内容を思い出すことができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・授業内での課題・提出物・レポート等を得点化する。(累積評価)
・平常点(25％)
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・スケジュール管理・振り返りで使用するための手帳を用意してもらう（個人負担）

［備考］

・適度にGoogleの機能を使う

［授業計画（内容）］	
1	前期オリエンテーション 手帳購入のポイント説明 目標設定（4/15～4/18）
2	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（4/15～4/21） アクティブ・リコール
3	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（4/22～5/12） アクティブ・リコール
4	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（5/13～5/19） アクティブ・リコール
5	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（5/20～5/26） アクティブ・リコール
6	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（5/27～6/2） アクティブ・リコール
7	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（6/3～6/9） アクティブ・リコール
8	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（6/10～6/16） アクティブ・リコール
9	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（6/17～6/23） アクティブ・リコール
10	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（6/24～6/30） アクティブ・リコール
11	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（7/1～7/7） アクティブ・リコール
12	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（7/8～7/14） アクティブ・リコール
13	１週間の授業内容のまとめ

	振り返り・スケジュール管理（7/15～8/25） アクティブ・リコール
14	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（8/26～9/1） アクティブ・リコール
15	前期のまとめ

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
学習指導	講義	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　　前期　後期　通年	１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

井畑　友佳

［授業の目的］

日々の振り返りを実施することで、将来、社会人となるにあたって必要な基本的なマナーやコミュニケーション、スケジュール管理等、自分自身でさまざまな管理ができるようになることを目的とする。

［授業の方法および概要］

到達目標に従い、それぞれ主体的・実践的な学習を行う。

・日々のスケジュール管理・振り返り
・１週間（もしくはある科目）で学習した授業内容のまとめ・報告・発表
・グループワークを通したコミュニケーション能力の向上
・「アクティブ・リコール」の適度な使用

［授業の到達目標］

・自分自身で用意した手帳を使用した日々のスケジュール管理・振り返りを継続することで習慣化できる。
・１週間で学習した授業内容をまとめ、報告・発表することができる。
・積極的なグループワーク参加を通して、コミュニケーション能力の向上を図ることができる。
・「アクティブ・リコール」で学習内容を思い出すことができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・授業内での課題・提出物・レポート等を得点化する。(累積評価)
・平常点(25％)
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・スケジュール管理・振り返りで使用するための手帳を用意してもらう（個人負担）

［備考］

・適度にGoogleの機能を使う

［授業計画（内容）］	
1	後期オリエンテーション 目標設定（9/30～10/6）
2	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（10/7～10/13） アクティブ・リコール
3	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（10/14～10/20） アクティブ・リコール
4	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（10/21～10/27） アクティブ・リコール
5	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（10/28～11/3） アクティブ・リコール
6	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（11/4～11/10） アクティブ・リコール
7	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（11/11～11/17） アクティブ・リコール
8	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（11/18～11/24） アクティブ・リコール
9	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（11/25～12/1） アクティブ・リコール
10	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（12/2～12/8） アクティブ・リコール
11	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（12/9～12/15） アクティブ・リコール
12	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（12/16～1/12） アクティブ・リコール
13	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（1/13～1/19）

	アクティブ・リコール
14	１週間の授業内容のまとめ 振り返り・スケジュール管理（1/20～1/26） アクティブ・リコール
15	後期のまとめ

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
Ｗｏｒｄ実習	実習	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　　前期　後期　通年	３０回　６０時間

［担当教員および実務経験］

織田島　順子

（一般企業にて営業事務、社会保険事務に従事し、書類作成などを担当）

［授業の目的］

企業団体の事務作業で必須であるパソコンの操作について、一般的な文書処理ソフトウエアとしてマイクロソフト社の『Ｗｏｒｄ』の操作を習得する。操作習得の証明として、日検ワープロ検定の取得を目指す。

［授業の方法および概要］

・Ｗｉｎｄｏｗｓの基本的操作方法について操作しながら習得する。
・Ｗｏｒｄの操作方法についての習得。段階を踏み操作しながら習得する。
・文書作成練習の実施により操作を習熟する。（検定対策も兼ねる）

［授業の到達目標］

・Ｗｉｎｄｏｗｓの基本的な操作ができる。
・Ｗｏｒｄについて、以下の操作ができる。
・文書データの読み込み・保存(新規保存、上書き保存、保存先を変えた保存)、印刷ができる。
・文書のページ設定ができる。（行数、１行あたりの文字数）
・文字入力（漢字変換)、文字および文字列の修飾ができる。
・作表、図表の挿入ができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・到達目標の修得状況を測るために、実技試験（速度・文書作成）による確認テストを実施する。
・平常点(25％)
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・実教出版編集部編『３０時間でマスター　Ｗｏｒｄ２０１６』実教出版、2016 年
・日本情報処理検定協会編『日本語ワープロ検定試験　模擬問題集』日本情報処理検定協会、2025年

［備考］

・日検ワープロ検定の受験級は学生が自身の能力に合わせた級を選択する。

［授業計画（内容）］	
1	Ｗｉｎｄｏｗｓの基礎（１章） タイピング①
2	Ｗｏｒｄ入門（２章） タイピング②
3	文書の作成①（３章） タイピング③
4	文書の作成②（３章） タイピング④
5	文書作成３級のポイント① タイピング⑤
6	文書作成３級のポイント② タイピング⑥
7	文書作成３級のポイント③ タイピング⑦
8	文書作成３級過去問題 タイピング⑧
9	速度・文書作成 ３級過去問題
10	確認テスト①
11	速度　３級過去問題① 文書作成準２級のポイント①
12	速度　３級過去問題② 文書作成準２級のポイント②
13	速度・文書作成 準２級過去問題①
14	速度・文書作成 準２級過去問題②
15	速度・文書作成 準２級過去問題③
16	速度・文書作成 準２級過去問題④
17	速度・文書作成 準２級過去問題⑤
18	速度・文書作成 準２級過去問題⑥

19	速度・文書作成 準２級過去問題⑦
20	確認テスト②
21	クリップアートの挿入・図形描画などＷｏｒｄの応用 ２級　きりとり線の作り方①
22	クリップアートの挿入・図形描画などＷｏｒｄの応用 ２級　きりとり線の作り方②
23	問題集を使った検定対策①
24	問題集を使った検定対策②
25	問題集を使った検定対策③
26	問題集を使った検定対策④
27	問題集を使った検定対策⑤
28	問題集を使った検定対策⑥
29	問題集を使った検定対策⑦
30	確認テスト③

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	
社会活動	実習	必修　選択

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　1年・２年　前期　後期　通年	１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

櫛野　友則

星野　和幸

［授業の目的］

１．学生自身が自ら行動することの意義を知り、地域の現状や課題に対して積極的に取り組む行動力を育む。

２．チーム活動を通じて、主体性と協調性の重要性を学び、チームの一員としてチームに貢献できる人材に成長する。

３．社会の現状や課題の実際を知り、社会への問題意識や批判的な思考力（クリティカルシンキング）を身に付け、社会性を確立する。

［授業の方法および概要］

１．チーム活動を円滑に実施するために、ファシリテーションについて学ぶ。

２．地域踏査を通じて学校周辺の地域の実情や特徴をつかむ。

３．チームを組んで、地域の実情や課題を知るための活動を行う。

４．活動後の振り返りを通して効果測定を行う。合わせて、他チームとも共有する。

［授業の到達目標］

１．ファシリテーションの概要を説明できる。

２．地域の特徴を説明することができる。

３．チームの一員として貢献することができる。

４．活動の結果を振り返り、まとめることができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)

　・到達目標の修得状況を測るために、課題提出により累積考査を実施する。

・平常点(25％)

　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

　・チームの一員として主体的かつ積極的に活動に参加し、チームに貢献している。

［使用テキスト・参考文献］

なし

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	オリエンテーション ファシリテーション
2	地域踏査①
3	地域踏査②
4	地域踏査③
5	地域踏査の共有
6	チーム編成、活動の検討、活動計画作成
7	チーム活動①
8	チーム活動②
9	チーム活動③
10	チーム活動④
11	チーム活動⑤
12	チーム活動⑥
13	チーム活動⑦
14	チーム活動まとめ
15	チーム活動発表

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
社会活動	実習	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　1年・２年　　前期　後期　通年	１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

櫛野　友則

星野　和幸

［授業の目的］

１．学生自身が自ら行動することの意義を知り、地域の現状や課題に対して積極的に取り組む行動力を育む。

２．チーム活動を通じて、主体性と協調性の重要性を学び、チームの一員としてチームに貢献できる人材に成長する。

３．社会の現状や課題の実際を知り、社会への問題意識や批判的な思考力（クリティカルシンキング）を身に付け、社会性を確立する。

［授業の方法および概要］

１．地域踏査を通じて学校周辺の地域の実情や特徴をつかむ。

２．チームを組んで、地域の実情や課題を知るための活動を行う。

３．活動後の振り返りを通して効果測定を行う。合わせて、他チームとも共有する。

［授業の到達目標］

１．地域の特徴を説明することができる。

２．チームの一員として貢献することができる。

３．活動の結果を振り返り、まとめることができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)

　・到達目標の修得状況を測るために、課題提出により累積考査を実施する。

・平常点(25％)

　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

　・チームの一員として主体的かつ積極的に活動に参加し、チームに貢献している。

［使用テキスト・参考文献］

なし

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	前期の活動の振り返り チーム再編成 活動計画作成
2	チーム活動①
3	チーム活動②
4	チーム活動③
5	チーム活動④
6	チーム活動⑤
7	チーム活動⑥
8	チーム活動⑦
9	チーム活動⑧
10	チーム活動⑨
11	チーム活動⑩
12	チーム活動⑪
13	チーム活動⑫
14	チーム活動まとめ
15	チーム活動発表

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
高齢者の福祉	講義	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　前期　後期　通年	１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

砂井　一哉

（特別養護老人ホーム及びケアハウスにおいて施設長（園長）として勤務）

［授業の目的］

高齢者の身体的・精神的傾向とそれを取り巻く環境を理解することを通じて、高齢者と関わること及び支援するために必要な基礎的知識を学ぶ。

［授業の方法および概要］

到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク・演習等も交えながら、内容の理解を深める。また確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。

［授業の到達目標］

１．介護保険制度がなぜ必要なのか説明できる。
２．老化に伴う心身の変化及び疾病に関する基本的知識を覚える。
３．高齢者の支援を行う際の基本的理念（自立支援、ノーマライゼーション等）について説明することができる。
４．高齢者との関わり方（コミュニケーション）の基本的知識を身に付ける。
５．認知症ケア、看取りケアについてその概要を把握できる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験による確認テストを実施する。
・平常点(25％)
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・黒澤貞夫等編集『介護職員初任者研修テキスト【第１巻】介護のしごとの基礎（第４版）』中央法規出版、2023年

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	オリエンテーション
2	高齢者制度の理解①
3	高齢者制度の理解②
4	高齢者制度の理解③
5	確認テスト①
6	老化の理解①
7	老化の理解②
8	介護における尊厳の保持・自立支援
9	介護の基本①
10	介護の基本②
11	確認テスト②
12	認知症の理解
13	介護におけるコミュニケーション技術
14	看取りの理解
15	確認テスト③

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
障がい者の福祉	講義	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　前期　後期　通年	１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

宮川　尚士

（障がい者就労支援施設で勤務）

［授業の目的］

障がいのある人の心理や身体機能に関する基礎知識を習得するとともに、障がいのある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した支援について学び、習得する。

［授業の方法および概要］

１．障害者の思いや生活実態を踏まえながら、障害の概念を学ぶ。（ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン）

２．　身体面に障害のある人について、医学的理解、心理的理解、生活の理解の支援上の留意点を学ぶ。

３．精神面に障害のある人、重症心身障害のある人、難病のある人について、医学的理解、心理的理解、生活の理解、の支援上の留意点について学ぶ。

４．障害のある人の自己決定、エンパワメント、権利擁護、及び生活ニーズの把握、アセスメントについて学ぶ。

５．家族の支援とは何かについて事例を踏まえて学ぶ。

６．関連職種とのチームアプローチのあり方、および地域で行政やインフォーマルの協力を得る手法に関して学ぶ。

［授業の到達目標］

１．「障害」、ノーマライゼーションとはどういうものなのかについて理解できる。

２．視覚、聴覚、言語、重複障害、肢体不自由、内部障害のある人の生活について理解できる。

３．知的、精神、高次脳機能、発達、重症心身障害、難病のある方のある人の生活について理解できる。

４．障害のある人に対する支援の基本的視点について理解できる。

５．家族への支援とは何か理解できる。

６．関連職種との連携を理解できる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)

・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。

・平常点(25%) ・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。
[使用テキスト・参考文献] ・山下幸子・竹端寛・尾﨑剛志・圓山里子『新・基礎からの社会福祉④ 障害者福祉 第３版』ミネルヴァ書房、2020年
[備考]

[授業計画(内容)]	
1	オリエンテーション 障害の概念
2	障害者福祉の基本理念 障害者福祉に関連する制度
3	障害のある人の心理、肢体不自由のある人の生活
4	視覚障害・聴覚障害・言語障害のある人の生活
5	知的障害のある人の生活 重複障害のある人の生活
6	精神障害のある人の生活
7	高次脳機能障害のある人の生活
8	発達障害のある人の生活
9	内部障害のある人の生活①
10	内部障害のある人の生活②
11	難病のある人の生活
12	地域のサポート体制 地域アプローチ
13	家族への支援とは
14	まとめ
15	期末考査

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
心理学の基礎	講義	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　前期　後期　通年	１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

井畑　友佳

［授業の目的］

「心理学とはどのような学問なのか？」「どのような種類の心理学があるのか？」「どのようなことに役立つのか？」など日常生活における身近な疑問を通して、人間の心の働きやしくみについての全体像を学ぶ。この授業では、数多くある心理学の分野を広く学んでいくことを目的とする。

［授業の方法および概要］

授業内容への関心を高めるため、コミュニケーションを取りながら学生自身の経験などを踏まえて進めていく。授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。さらに、内容を深く理解するためにグループワーク等のアクティブラーニング手法を適度に取り入れることとする。

［授業の到達目標］

・心理学諸理論を正確な用語で説明できる。
・心理学の成り立ちや人の心の基本的な仕組みと働きについて具体例を挙げながら説明できる。
・心理学を学び理解したことを実生活に応用できる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験による数回の確認テストを実施する。
・平常点(25％)
　・授業内に行うワークシートについて積極的に取り組む。
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・齊藤勇編『図説心理学入門　［第２版］』誠信書房、2005年

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	自己紹介 授業ガイダンス 導入：心理学のはじまり
2	第１章：知覚と認知①
3	第１章：知覚と認知②
4	確認テスト① 第２章：欲求と感情①
5	第２章：欲求と感情②
6	第２章：欲求と感情③
7	確認テスト② 第３章：学習・思考・記憶①
8	第３章：学習・思考・記憶②
9	第３章：学習・思考・記憶③
10	第３章：学習・思考・記憶④
11	確認テスト③ 第５章：性格と異常心理 第７章：脳と生理心理学
12	第４章の補足 第６章：社会心理学①
13	第６章：社会心理学②
14	第８章：臨床心理と心理療法①
15	第８章：臨床心理と心理療法② 確認テスト④

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
レクリエーション	演習	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　前期　後期　通年	１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

早川　武士

（高齢者施設にて介護職員・介護支援専門員として勤務）

［授業の目的］

介護や障害のサービスを利用して生活をしている方々にとって、余暇活動を充実させることが生活の質の向上へとつながること、また、身体機能の向上にもつながり得ることを理解することを目的とする。また、利用者ニーズを把握し、余暇活動を充実させる適切な方法を身につけることを目的とする。

［授業の方法および概要］

実例を基とした高齢者施設での利用者および職員の様子についての講義を通して理解する。実際に施設で生活している利用者と手紙やレクリエーションなどの手法を使い、コミュニケーションを図る方法を学ぶ。

［授業の到達目標］

・余暇活動の充実が高齢者施設で生活する高齢者の生活に与える影響を体験する。
・高齢者向けレクリエーションを実際に高齢者施設の利用者に行うことで、効果的なレクリエーションの実践方法を身につける。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験による確認テストを実施する。
・平常点(25％)
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

なし

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	オリエンテーション 自己紹介
2	高齢者施設のイメージ
3	レクリエーションの本質
4	オリジナル手紙入れ（封筒）作成
5	レクリエーションに関する基礎知識
6	確認テスト①
7	アイスブレイク
8	手話で表現（高齢者に馴染みのある歌）
9	レクリエーション計画作成
10	確認テスト②
11	レクリエーション実践（高齢者施設）①
12	レクリエーション実践（高齢者施設）②
13	レクリエーション実践の振り返り・まとめ
14	レクリエーション実践の発表会
15	確認テスト③

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	
手話	講義	必修　選択

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　前期　後期　通年	２０回　４０時間

［担当教員および実務経験］

白倉　啓子

［授業の目的］

手話技能検定４級の取得を目指す。また言語の１つである手話の基礎知識を習得することで、コミュニケーション能力の幅を広げ、福祉の現場でも活用できるようにする。

［授業の方法および概要］

到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えて、グループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストや模擬試験を行い、到達目標の修得度を測定する。

［授業の到達目標］

・指文字50音の意味が理解でき、表現することができる。
・指文字で自分の名前を表すことができる。
・都道府県の手話の意味が理解でき、表現することができる。
・６級レベルの基本単語を理解し、表現できる。
（あいさつ・天候・疑問・数字・曜日・日・週・年・人・家族・色・方角・感情・動作）
・５級レベルの基本単語を理解し、表現できる。
（質問と時間・自然に関する単語と家族・仕事・趣味・程度を示す単語・基本動詞・形容詞）
・４級レベルの単語を理解し、表現できる。
（人間・食べ物・動物・生活・スポーツ・感情・趣味・乗り物・形容詞・副詞・社会・施設・数・地名・動詞）
・模擬試験で８割の正答率を出すことができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・到達目標の修得状況を測るために、模擬試験（確認テスト）により累計考査を実施する。
・平常点(25％)
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・ＮＰＯ手話技能検定協会著『改訂版　手話技能検定公式テキスト３・４級』日本能率協会マネジメントセンター、2010年
［備考］ ・手話技能検定４級：９月１１日（木）受験予定

［授業計画（内容）］	
1	手話技能検定について 指文字（50音）
2	指文字で自己紹介 都道府県の手話①
3	都道府県の手話②
4	６級レベルの基本単語①
5	６級レベルの基本単語②
6	６級レベルの基本単語③
7	５級レベルの基本単語①
8	５級レベルの基本単語②
9	５級レベルの基本単語③
10	４級レベルの単語と例文① （単語１：人間・食べ物・動物）
11	４級レベルの単語と例文② （単語２：生活・スポーツ・感情・趣味・乗り物）
12	４級レベルの単語と例文③ （単語３：形容詞・副詞）
13	４級レベルの単語と例文④ （単語４：社会・施設・数）
14	４級レベルの単語と例文⑤ （単語５：地名、単語６：動詞）
15	まとめ＆復習
16	模擬試験（確認テスト）①
17	模擬試験（確認テスト）②
18	模擬試験（確認テスト）③
19	模擬試験（確認テスト）④
20	模擬試験（確認テスト）⑤

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	
ソーシャルワークの基礎	講義	必修　選択

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　前期　後期　通年	１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

櫛野　友則

［授業の目的］

社会福祉士としての業務であるソーシャルワークについて、その定義や歴史、理念、倫理について学ぶことを目的とする。また、ソーシャルワークの方法と技術の基本に関しては、講義に加え、演習を通して実践できるようになることを目的とする。

［授業の方法および概要］

到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。

［授業の到達目標］

・ソーシャルワークの業務や定義について説明することができる。
・ソーシャルワークを行う上で必要な対人援助技術について説明することができる。
・ケースワークやグループワークの概要を理解した上で、ソーシャルワークに必要な社会資源の活用について自分の考えを述べることができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験による複数回の確認テストを実施する。
・平常点(25％)
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・稲沢公一、岩崎晋也著『社会福祉をつかむ（第３版)』有斐閣、2019年

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	ソーシャルワークとは何か
2	ソーシャルワークの要件
3	ソーシャルワーク専門職のグローバル定義
4	社会福祉士の倫理綱領
5	確認テスト①
6	ケースワークとバイステックの７原則
7	個別援助の展開過程①
8	個別援助の展開過程②
9	個別援助の個人モデルと環境モデル
10	個別援助の物語モデルと文化モデル
11	確認テスト②
12	グループワーク（集団援助技術）の概要①
13	グループワーク（集団援助技術）の概要②
14	グループワークの展開過程とセルフヘルプ・グループ
15	確認テスト③

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	
ソーシャルワークの基礎	講義	必修　選択

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　　前期　後期　通年	１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

櫛野　友則

［授業の目的］

社会福祉士としての業務であるソーシャルワークについて、その定義や歴史、理念、倫理について学ぶことを目的とする。また、ソーシャルワークの方法と技術の基本に関しては、講義に加え、演習を通して実践できるようになることを目的とする。

［授業の方法および概要］

到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。

［授業の到達目標］

・コミュニティワークに関する知識を用いて、社会資源開発に関する自分の考えを述べることができる。
・ソーシャルワークの歴史と方法に関する用語を説明することができる。
・ソーシャルワークのアプローチを列挙し、それぞれ簡潔に説明することができる。
・ソーシャルワークを行う上で必要なアウトリーチやケアマネジメント、スーパービジョン、コンサルテーションを理解し、これらを用いて実践に活かすことができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験による複数回の確認テストを実施する。
・平常点(25％)
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・稲沢公一、岩崎晋也著『社会福祉をつかむ（第３版)』有斐閣、2019年

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	コミュニティワークの概要①
2	コミュニティワークの概要②
3	確認テスト①
4	コミュニティワークの展開過程①
5	コミュニティワークの展開過程②
6	確認テスト②
7	ソーシャルワークの歴史と統合化①
8	ソーシャルワークの歴史と統合化②
9	確認テスト③
10	ソーシャルワークのアプローチ技法①
11	ソーシャルワークのアプローチ技法②
12	確認テスト④
13	アウトリーチとケアマネジメント
14	スーパービジョンとコンサルテーション
15	確認テスト⑤

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
福祉体験	実習	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　前期　後期　通年	２４回　４８時間

［担当教員および実務経験］

渡辺　康子

（病院・高齢者施設において介護職員として11.5年勤務）

［授業の目的］

福祉施設を訪問し、実際に利用者と関わる中で、福祉施設の概要・実態を直接的に学び、ソーシャルワーカーに必要となる知識・技術・実践力を身に付けることを目的とする。高齢者福祉施設での体験を行うことにより、施設種別の違いを理解し、自身の就職先・進路を考えるきっかけづくりをする。

［授業の方法および概要］

実際に福祉施設を訪問する中で、到達目標に沿って、施設の概要・実態、利用者の状況を理解する。また、訪問の前後に計画・報告（振り返り）を行うことで、自身の到達度の把握・理解を促進する。

［授業の到達目標］

・体験先の福祉施設の概要を説明できる。
・体験先の福祉施設の利用者の状況（心身状態、生活環境等）を説明できる。
・体験先の利用者１名を選定して、ソーシャルワーカーとしての関わり方やケアの方法等を提案できる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・施設体験前後に計画書・報告書を提出し、その内容を得点化する。
・平常点(25％)
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

なし

［備考］

［授業計画（内容）］	
1～2	前期オリエンテーション（体験先の情報把握、計画書・報告書の作成方法等）
3～4	福祉体験訪問①（施設概要の理解（グループホーム））
5～6	福祉体験訪問②（施設職員の理解（グループホーム））
7～8	福祉体験訪問③（ソーシャルワーカーの役割の理解（グループホーム））
9～10	中間振り返り
11～12	福祉体験訪問④（施設種類による概要の違いの理解（デイサービス））
13～14	福祉体験訪問⑤（施設種類による概要の違いの理解（ショートステイ））
15～16	福祉体験訪問⑥（最初に訪問した施設を再度訪問し学びの確認）
17～18	まとめ（報告会準備）①
19～20	まとめ（報告会準備）②
21～22	まとめ（報告会準備）③
23～24	福祉体験報告会（高齢者福祉施設）

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	
福祉体験	実習	必修　選択

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　　前期　後期　通年	３０回　６０時間

［担当教員および実務経験］

白倉　啓子

（高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事）

［授業の目的］

福祉施設を訪問し、実際に利用者と関わる中で、福祉施設の概要・実態を直接的に学び、ソーシャルワーカーに必要となる知識・技術・実践力を身に付けることを目的とする。障害者福祉施設での体験を行うことにより、施設種別の違いを理解し、自身の就職先・進路を考えるきっかけづくりをする。

［授業の方法および概要］

実際に福祉施設を訪問する中で、到達目標に沿って、施設の概要・実態、利用者の状況を理解する。また、訪問の前後に計画・報告（振り返り）を行うことで、自身の到達度の把握・理解を促進する。

［授業の到達目標］

・体験先の福祉施設の概要を説明できる。
・体験先の福祉施設の利用者の状況（心身状態、生活環境等）を説明できる。
・体験先の利用者１名を選定して、ソーシャルワーカーとしての関わり方やケアの方法等を提案できる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・施設体験前後に計画書・報告書を提出し、その内容を得点化する。
・平常点(25％)
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

なし

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	後期オリエンテーション（体験先の情報把握、計画書・報告書の作成方法等）
2	訪問先グループ検討
3～4	訪問先アポイントメント取り
5～6	福祉体験訪問①（障害者福祉施設（身体障害者施設））
7～8	福祉体験訪問②（障害者福祉施設（知的・精神障害者施設））
9～10	福祉体験訪問③（障害者福祉施設（放課後等デイサービス））
11～12	福祉体験訪問④（障害者福祉施設（就労移行支援事業所））
13～14	中間振り返り
15～16	福祉体験訪問⑤（障害者福祉施設（就労継続支援Ａ型事業所））
17～18	福祉体験訪問⑥（障害者福祉施設（就労継続支援Ａ型事業所））
19～20	福祉体験訪問⑦（障害者福祉施設（就労継続支援Ｂ型事業所））
21～22	福祉体験訪問⑧（障害者福祉施設（就労継続支援Ｂ型事業所））
23～24	まとめ（報告会準備）①
25～26	まとめ（報告会準備）②
27～28	まとめ（報告会準備）③
29～30	福祉体験報告会（障害者福祉施設）

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
社会福祉の基礎	講義	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　　前期　後期　通年	１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

櫛野　友則

［授業の目的］

社会福祉を各分野の概観からながめるのではなく、各分野に通じる基盤を「つかむ」ことによって、今後、社会福祉各科目を学ぶ上での基礎をつくる。

［授業の方法および概要］

到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。

［授業の到達目標］

・社会福祉は社会福祉実践（援助論）と社会福祉政策（政策論）から構成されていることを理解する。
・現代社会における生活を支える仕組み（家族・市場・社会サービス）のなかで、社会福祉はどのように位置づけられるのかを理解する。
・福祉国家形成の歴史及び日本の社会福祉のあゆみを理解する。
・社会福祉政策の運営の基本的な仕組みや考え方を、対象・方法・提供主体の側面から理解する。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験による複数回の確認テストを実施する。
・平常点(25％)
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・稲沢公一、岩崎晋也著『社会福祉をつかむ（第３版)』有斐閣、2019年

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	社会福祉の２つの構成（社会福祉政策と社会福祉実践） 社会政策とは何か
2	社会福祉の補充性と固有性
3	福祉国家の形成①
4	福祉国家の形成②
5	確認テスト①
6	福祉国家はどこへ行くのか
7	日本の社会福祉のあゆみ①
8	日本の社会福祉のあゆみ②
9	確認テスト②
10	社会福祉の対象と社会的必要性（ニーズ）
11	社会福祉の行財政
12	社会福祉の供給体制
13	社会福祉の担い手①
14	社会福祉の担い手②
15	確認テスト③

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
児童・家庭の福祉	講義	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　　前期　後期　通年	１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

星野　和幸

［授業の目的］

児童福祉の基礎知識を習得し、大学のレポート学習及び国家試験の土台を形成する。また児童の置かれているさまざまな問題について考える機会をつくる。

［授業の方法および概要］

到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。

［授業の到達目標］

・児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境を理解し説明できる。
・戦前・戦後の児童福祉の流れを把握することができる。
・子どもの権利条約について理解し、その特徴を伝えることができる。
・児童福祉法の制定の経緯・児童福祉の理念・児童福祉の対象を理解し説明できる
・児童福祉法に規定されている児童福祉施設（13種類）を答えることができる。それぞれの施設の内容を把握できる。
・児童虐待の4つの種類を答えることができ、それぞれの種類の内容を把握できる。児童虐待防止法について理解できる。
・発達障害児の現状、及びその支援体制について理解できる。
・社会的養護について実施体制と今後の方向性について理解できる。
・児童の貧困の現状について理解し、その対策（こども食堂）について説明できる。
・児童相談所の役割について理解できる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験による複数回の確認テストを実施する。
・平常点(25％)
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・『社会福祉学習双書』編集委員会編著『社会福祉学習双書2025　第５巻　児童・家庭福祉』全国社会福祉協議会、2025年

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	児童家庭福祉の理念と基本的理解
2	子どもの人権・権利保障
3	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会環境
4	児童家庭福祉制度における関係機関と専門職の役割
5	確認テスト①
6	母子保健
7	子育て支援・保育・児童健全育成
8	スクールソーシャルワーク
9	子どもと家庭にかかわる貧困、女性の福祉
10	確認テスト②
11	社会的養護
12	児童虐待への対応①
13	児童虐待への対応②
14	障害児福祉
15	確認テスト③

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	
生涯発達心理学	講義	必修　選択

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　　前期　後期　通年	１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

井畑　友佳

［授業の目的］

「人が発達する」ということや発達する期間、発達させる要因となるものについて考えを深める。また、子ども、大人、高齢者といった年齢区分ごとの理解に留まらず「生涯」という視点を活かして「これまで・現在・これからのつながり」「積み重ね」を考えながら人の発達について深く学ぶ。

［授業の方法および概要］

授業は到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行う。さらに、内容を深く理解するためにグループワーク等のアクティブラーニング手法を適度に用いる。加えて、到達目標の修得度を測定するために確認テストや課題提出を実施する。

［授業の到達目標］

・発達の過程の中で、認知機能、感情、自己、社会性、対人関係などの発達の諸側面がどのように変化していくか説明することができる。
・幼児期、青年期、老年期といった発達の各時期の特徴を簡潔に説明することができる。
・発達心理学で用いられる基本的な概念、用語を理解し、自分及び周りにいる人々の姿・行動から事例として適切なものを選択して具体的に説明することができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験による数回の確認テストを実施する。
・平常点(25％)
　・授業中の課題に関しては、しっかりと行い期限内に提出すること。
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・山岸明子著『こころの旅　発達心理学入門』新曜社、2011年

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	授業ガイダンス 導入：発達とは何か？ 発達のイメージを考える 人生グラフの作成
2	第１章　発達とは何か、発達心理学とは何か
3	第２章　発達を規定するもの①
4	第２章　発達を規定するもの②
5	確認テスト① 第３章　乳児期―母子関係の成立①
6	第３章　乳児期―母子関係の成立②
7	第３章　乳児期―母子関係の成立③ 第４章　幼児期―自立の時期
8	第５章　乳幼児期―その様々な発達
9	確認テスト② 第６章　児童期①
10	第６章　児童期②
11	第７章　青年期①
12	第７章　青年期②
13	確認テスト③ 第８章　成人期、そして老年期①
14	第８章　成人期、そして老年期②
15	確認テスト④

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
カウンセリング	講義	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　　前期　後期　通年	３０回　６０時間

［担当教員および実務経験］

井畑　友佳

［授業の目的］

「ピア」とは仲間、「ヘルパー」とは人の助けをする人、そして「ヘルピー」とは助けられる人のことである。ピアヘルパー認定試験に関する授業を通して、ピアヘルパーとピアヘルピーの関係性を理解し、最終的にはピアヘルパー認定試験に合格し、資格を取得することが目的である。そして、今回の授業で得た知識を実際に社会で使えることを目的とする。

［授業の方法および概要］

授業を行い、ピアヘルパー認定試験に関する知識を習得することに繋げていく。また、授業は到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて講義を行う。さらに、内容を深く理解するためにグループワーク等のアクティブラーニング手法を適度に用いる。加えて、到達目標の修得度を測定するために確認テスト（確認問題）等を実施する。

［授業の到達目標］

・ピアヘルパーについての知識を十分にもつこと
・ピアヘルパーの活動を行う意志をもち実行できること
・ピアヘルパーを好きになること

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験による数回の確認テストを実施する。
・平常点(25％)
　・授業中の課題に関しては、しっかりと行い期限内に提出すること。
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーハンドブック（第２版)』図書文化社、2024年
・日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーワークブック』図書文化社、2002年

［備考］

［授業計画（内容）］	
1～2	＜授業ガイダンス＞
	試験と授業スタイルについての説明
	＜まえがき―ピアヘルパーの誕生―＞
	＜第１章＞
	1. 構成的グループエンカウンター
3～4	2. カウンセリングの定義と略史と必要性
	3. カウンセリングの種類
	4. ピアヘルピングの関係領域
	5. ピアヘルピングの関係領域
5～6	6. ピアヘルピングのプロセス
	7. ピアヘルパーのパーソナリティ
7	確認テスト①
	＜第２章＞
	1. ピアヘルピングの言語的技法①
8	1. ピアヘルピングの言語的技法②
9～10	2. ピアヘルピングの非言語的技法
11	3. 対話上の諸問題への対処法
12～13	4. 問題への対処法
	5. ピアヘルパーの心がまえ
14～15	6. ヘルピングスキルの上達法
16	確認テスト②
	＜第３章＞
	1. ピアヘルパーの活動許容範囲と留意点①
17	1. ピアヘルパーの活動許容範囲と留意点②
	2. 学業領域
18～19	3. 進路領域
	4. 友人領域
	5. グループ領域
20～21	6. 関係修復領域
	7. 心理領域
22	確認テスト③
	模擬試験対策①
23	模擬試験対策②
24	模擬試験①
25	模擬試験①の復習
26	模擬試験②
27	模擬試験②の復習

28	模擬試験③
29	模擬試験③の復習
30	模擬試験④（確認テスト④）

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
Ｅｘｃｅｌ実習	実習	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　２年　前期　後期　通年	３０回　６０時間

［担当教員および実務経験］

織田島　順子

（一般企業にて営業事務、社会保険事務に従事し、書類作成などを担当）

［授業の目的］

企業団体の事務作業で必須であるパソコンの操作について、一般的な表計算ソフトウエアとしてマイクロソフト社の『Ｅｘｃｅｌ』の操作を習得する。操作習得の証明として、日検情報処理検定（表計算）の取得を目指す。

［授業の方法および概要］

・Ｅｘｃｅｌの操作方法についての習得。段階を踏み操作しながら習得する。
・作表練習の実施により操作を習熟する。（検定対策も兼ねる）

［授業の到達目標］

Ｅｘｃｅｌについて、以下の操作ができる。
・データの読み込み、保存（新規保存、上書き保存）
・文字の入力、文字属性の変更
・表の作成
・セルの書式設定（表示形式の変更、罫線）
・計算式の入力（四則演算）
・セル番地の絶対参照
・関数式の入力（表計算検定２級出題範囲の関数）
・グラフの作成（棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ）
・印刷

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。
・考査点(75％)
　・到達目標の修得状況を測るために、実技試験による確認テストを実施する。
・平常点(25％)
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・実教出版編集部編『３０時間でマスター　Ｅｘｃｅｌ２０１６』実教出版、2016 年
・日本情報処理検定協会編『情報処理技能検定試験 表計算 模擬問題集』日本情報処理検定協会、2025年

［備考］

・情報処理技能検定（表計算）の受験級は学生が自身の能力に合わせた級を選択する。

［授業計画(内容)］	
1	Ｅｘｃｅｌの基礎知識（１章） Ｅｘｃｅｌ入門①　ＳＵＭ関数（２章）
2	Ｅｘｃｅｌ入門②　ファイルの保存と呼び出し、印刷、グラフの作成と印刷、オートフィル（２章）
3	ワークシートの活用（１）①　行や列の削除・挿入・移動、編集（３章）
4	ワークシートの活用（１）②　ＡＶＥＲＡＧＥ関数、表示形式の変更（３章）
5	ワークシートの活用（１）③　罫線、オートカルク・セルのスタイル（３章）
6	ワークシートの活用（２）①　ＭＡＸ・ＭＩＮ関数（４章）
7	ワークシートの活用（２）②　ＣＯＵＮＴ・ＣＯＵＮＴＡ関数（４章）
8	ワークシートの活用（２）③　ＲＯＵＮＤ関数（４章）
9	グラフ（１）①　棒グラフ、積み上げグラフ（５章）
10	グラフ（１）②　折れ線グラフ、円グラフ（５章）
11	データベース①　データの並べ替え、データの検索と置換（７章）
12	データベース②　データの抽出、データの集計（７章）
13	Ｅｘｃｅｌの応用①　順位づけ、列の検索、行の検索（８章）
14	Ｅｘｃｅｌの応用②　文字列の操作（８章）
15	Ｅｘｃｅｌの応用③　データベース関数（８章）
16	問題集を使った検定対策①
17	問題集を使った検定対策②
18	問題集を使った検定対策③
19	問題集を使った検定対策④
20	問題集を使った検定対策⑤
21	問題集を使った検定対策⑥
22	問題集を使った検定対策⑦
23	確認テスト①
24	過去問題を使った検定対策①
25	過去問題を使った検定対策②
26	過去問題を使った検定対策③
27	過去問題を使った検定対策④
28	過去問題を使った検定対策⑤
29	過去問題を使った検定対策⑥
30	確認テスト②

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔ実習	実習	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　２年　　前期　後期　通年	１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

織田島　順子

（一般企業にて営業事務、社会保険事務に従事し、書類作成などを担当）

［授業の目的］

企業団体の事務作業で必須であるパソコンの操作について、一般的なプレゼンテーションソフトウエアとしてマイクロソフト社の『Ｐｏｗｅｒｐｏｉｎｔ』の操作を習得する。また、プレゼンテーションにおけるスピーチの技術についても習得する。

［授業の方法および概要］

・Ｐｏｗｅｒｐｏｉｎｔの操作方法についての習得。

・課題の発表を行うことにより話し方とプレゼンテーション時の振る舞いを習得する。

［授業の到達目標］

・基本的なスライド作成が行える。（書式設定、文字・図表の挿入、スライドの編集）

・「読ませる」スライドではなく「一目で理解できる」スライドの作成ができる

・作成したスライドをフルスクリーンでプロジェクタに投影できる。

・聴き手が理解しやすい話し方・内容で発表（プレゼンテーション）ができる

・グループで作業を分担して発表ができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)

　・到達目標の修得状況を測るために、実技試験（課題発表）による確認テストを実施する。

・平常点(25％)

　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・実教出版編集部編『３０時間でマスター　プレゼンテーション＋Ｐｏｗｅｒｐｏｉｎｔ　２０１６』実教出版、2016 年

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	PowerPointの概要、画面説明、起動・終了、
2	PowerPointの操作①（簡単なスライド作成・投影）
3	PowerPointの操作②（スライドの配色、文字の書式設定）
4	PowerPointの操作③（グラフ、表の挿入）
5	PowerPointの操作④（図形・イラスト・画像の挿入）
6	PowerPointの操作⑤（マスタースライドの設定）
7	PowerPointの操作⑥（アニメーション）
8	課題１作成①
9	課題１作成②
10	課題１発表①（確認テスト①）
11	課題１発表②（確認テスト①）
12	課題２作成①
13	課題２作成②
14	課題２発表①（確認テスト②）
15	課題２発表②（確認テスト②）

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
社会学と社会システム	講義	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　２年　前期　後期　通年	１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

櫛野　友則

［授業の目的］

社会福祉士としてソーシャルワークを行う上で、現代社会がどのような課題を抱えているか、またどういう原因でその課題が生じるかを、社会全体の視点から考えることができる力を養うことを目的とする。

［授業の方法および概要］

到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。

［授業の到達目標］

・現代社会の特性を説明できる。
・生活の多様性について説明できる。
・人と社会の関係について説明できる。
・社会問題とその背景について説明できる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験による確認テストを実施する。
・平常点(25％)
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座３　社会学と社会システム』中央法規出版、2021年

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	社会システム
2	組織と集団
3	人口
4	グローバリゼーション
5	社会変動
6	確認テスト①
7	地域と環境
8	社会格差
9	社会政策と社会問題、災害と復興
10	家族とジェンダー
11	健康、労働、世代
12	確認テスト②
13	自己と他者
14	社会化
15	確認テスト③

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
高齢者福祉	講義	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　２年　前期　後期　通年	１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

渡辺　康子

（病院・高齢者施設において介護職員として11.5年勤務）

［授業の目的］

高齢期の特徴、超高齢社会の諸課題について理解した上で、高齢者とその家族に対する諸制度と支援の方法について体系的に理解することを目的とする。

［授業の方法および概要］

到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。

［授業の到達目標］

・高齢者（老い）の定義と特性について理解し説明できる。
・少子高齢社会の現状と高齢者を取り巻く諸問題について理解し説明できる。
・高齢者に対する諸制度について理解し説明できる。
・介護保険制度とサービスの体系について理解し説明できる。
・高齢者を支援する組織と専門職の役割を理解し説明できる。
・高齢者支援の方法について理解し説明できる。
・高齢者福祉に関わる諸問題に関心を持ち、今後の課題について考えることができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験による確認テストを実施する。
・平常点(25％)
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座２高齢者福祉 第２版』中央法規出版、2025年

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	高齢者の定義と特性
2	少子高齢社会
3	高齢者の生活実態
4	高齢者を取り巻く社会環境
5	確認テスト① 高齢者福祉の理念
6	高齢者福祉の発展①
7	高齢者福祉の発展②
8	介護保険制度の概要
9	地域支援事業
10	確認テスト② 介護保険サービスの体系
11	高齢者に対する関連諸制度①
12	高齢者に対する関連諸制度②
13	関係機関と専門職の役割
14	高齢者と家族に対する支援方法
15	確認テスト③

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
福祉住環境	講義	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　２年　　前期　後期　通年	６０回　１２０時間

［担当教員および実務経験］

白倉　啓子

（高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事）

［授業の目的］

福祉住環境コーディネーターとして、高齢者や障害者などの住まいや住環境整備を考える際、対象者の身体機能な生活状況を十分に考慮し、これらの配慮した福祉用具や住宅構造の検討と調整、情報提供などをできること、さらに住環境整備にかかわる家族や専門職間の調整ができることを目指し、必要とされる知識を習得することを目的とする。

［授業の方法および概要］

・授業前に事前課題を課し、基礎的事項を確認する。
・授業中は、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。
・各章終了ごとに確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。
・検定直前は、複数回の問題演習を通して、知識の定着を図る。

［授業の到達目標］

・少子高齢社会の現状と課題を説明できる。
・地域社会、社会全体の取り組みの必要性を説明できる。
・日本の住環境の問題点を列挙できる。
・福祉住環境コーディネーターの定義と役割を説明できる。
・高齢者の自立生活を支える介護保険制度を取り巻く状況、今後の課題を説明できる。
・障害者総合支援法のしくみと、今後の障害者福祉施策の方向性を説明できる。
・高齢者の健康と自立の方法（食事の改善、運動の目的と方法）を提案できる。
・障害者が生活の不自由を克服する方法を提案できる。
・バリアフリーとユニバーサルデザインの概要を説明できる。
・共用品と福祉用具の定義と役割、導入の留意点を説明できる。
・住まいの整備のための基本技術（段差、床材、手すり、建具、幅・スペース、家具・収納、色彩・照明、インテリア、冷暖房、非常時の対応、維持管理）を説明できる。
・生活行為別（屋外移動・外出、屋内移動、排泄・整容・入浴、清掃・洗濯・調理、起居・就寝）に見る安全・安心・快適な住まいを提案できる。
・ライフスタイルの多様化について説明できる。
・安心できる住生活（高齢者、障害者）を提案できる。
・安心して暮らせるまちづくり（諸法制度含む）について説明できる。
・福祉住環境コーディネーター検定試験３級に合格できる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)

・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験による確認テストを実施する。

・平常点(25％)

・指定された課題を期限までに実施し、その内容が適切である。

・授業に積極的に参加し、検定合格に向けて努力している。

［使用テキスト・参考文献］

・『福祉住環境コーディネーター検定試験３級公式テキスト（改訂７版）』東京商工会議所、2025 年

・『福祉住環境コーディネーター検定試験３級練習問題』東京商工会議所、2025年

［備考］

・第55回福祉住環境コーディネーター検定３級を全員受験する。

※2025年12月4日（木）予定

［授業計画（内容）］

1～4	授業オリエンテーション
	＜第１章　第１節＞　少子高齢社会とユニバーサル社会への道
5～6	＜第１章　第２節＞　福祉住環境整備の重要性・必要性
7～12	＜第１章　第３節＞　在宅生活の維持とケアサービス
13	確認テスト①
14～15	＜第２章　第１節＞　健康と障害の基礎知識
16～18	＜第２章　第２節＞　高齢者と障害者の特性
19～20	＜第２章　第３節＞　機能の維持・回復をめざすリハビリテーション
21	確認テスト②
22～23	＜第３章　第１節＞　バリアフリーとユニバーサルデザインを考える
24～29	＜第３章　第２節＞　生活を支えるさまざまな用具
30	確認テスト③
31～35	＜第４章　第１節＞　住まいの整備のための基本技術
36～41	＜第４章　第２節＞　生活行為別に見る安全・安心・快適な住まい
42	確認テスト④
43～45	＜第５章　第１節＞　ライフスタイルの多様化と住まい
46～50	＜第５章　第２節＞　安全で安心できる住生活
51～54	＜第５章　第３節＞　安全で安心して暮らせるまちづくり
55	確認テスト⑤
56～57	問題演習・解説①
58～59	問題演習・解説②

60	問題演習・解説③（確認テスト⑥）

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	
福祉ボランティア	実習	必修　選択
［対象学科・学年・時期］		［授業回数・時間数］
社会福祉科　２年　前期　後期　通年		３０回　６０時間

［担当教員および実務経験］

渡辺　康子

（病院・高齢者施設において介護職員として11.5年勤務）

［授業の目的］

多岐に渡る福祉の現場での体験を通し、実践力を身につけると同時に就職活動時の職場選びに役立てる。

［授業の方法および概要］

毎週１度２時間以上のボランティアを繰り返し行うことで、福祉現場の実情を体験を通して学び、まとめることができる。

［授業の到達目標］

・ボランティア先の事業概要を説明できる。
・社会において事業所やソーシャルワーカーに求められる役割を理解できる。
・自身のボランティア計画を立て、目標達成に向け取り組むことができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・ボランティア内容の共有とまとめレポートの内容を得点化する。
・平常点(25％)
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

なし

［備考］

［授業計画（内容）］	
1～2	前期オリエンテーション（福祉ボランティアの目的、流れ）
3～4	行き先調査・アポイントメント①
5～6	行き先調査・アポイントメント②
7～8	ボランティア活動①（活動を通した福祉現場の学び）
9～10	ボランティア活動②（目的、目標に沿った取り組み）
11～12	ボランティア活動③（目的、目標の達成への考察）
13～14	ボランティア活動④（目的、目標達成のための計画）
15～16	ボランティア活動⑤（目的、目標達成の計画実施）
17～18	ボランティア活動⑥（実施状況のモニタリング）
19～20	ボランティア活動⑦（計画の修正、変更）
21～22	ボランティア活動⑧（計画再実施）
23～24	ボランティア活動⑨（実施状況のモニタリング、計画の修正、変更）
25～26	ボランティア活動⑩（計画再実施）
27～28	ボランティア活動⑪（計画評価）
29～30	福祉ボランティア活動のまとめ・振り返り

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
福祉ボランティア	実習	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　２年　　前期　後期　通年	３０回　６０時間

［担当教員および実務経験］

白倉　啓子

（高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事）

［授業の目的］

多岐に渡る福祉の現場での体験を通し、実践力を身につけると同時に就職活動時の職場選びに役立てる。

［授業の方法および概要］

毎週１度２時間以上のボランティアを繰り返し行うことで、福祉現場の実情を体験を通して学び、まとめることができる。

［授業の到達目標］

・ボランティア先の事業概要を説明できる。
・社会において事業所やソーシャルワーカーに求められる役割を理解できる。
・自身のボランティア計画を立て、目標達成に向け取り組むことができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・ボランティア内容の共有とまとめレポートの内容を得点化する。
・平常点(25％)
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

なし

［備考］

［授業計画（内容）］	
1～2	後期オリエンテーション（福祉ボランティアの目的、流れ）
3～4	行き先調査・アポイントメント①
5～6	行き先調査・アポイントメント②
7～8	ボランティア活動①（活動を通した福祉現場の学び）
9～10	ボランティア活動②（目的、目標に沿った取り組み）
11～12	ボランティア活動③（目的、目標の達成への考察）
13～14	ボランティア活動④（目的、目標達成のための計画）
15～16	ボランティア活動⑤（目的、目標達成の計画実施）
17～18	ボランティア活動⑥（実施状況のモニタリング）
19～20	ボランティア活動⑦（計画の修正、変更）
21～22	ボランティア活動⑧（計画再実施）
23～24	ボランティア活動⑨（実施状況のモニタリング、計画の修正、変更）
25～26	ボランティア活動⑩（計画再実施）
27～28	ボランティア活動⑪（計画評価）
29～30	福祉ボランティア活動のまとめ・振り返り

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
レポート指導	演習	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　２年　前期　後期　通年	１１４回　２２８時間

［担当教員および実務経験］

櫛野友則・佐藤千香・白倉啓子・星野和幸・渡辺康子

［授業の目的］

ソーシャルワークの専門職である社会福祉士に必要とされる知識を獲得するために、東北福祉大学通信教育部の規定に基づき、社会福祉士養成課程の指定科目の単位修得を目指す。本科目では「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワーク演習」「児童・家庭福祉」「高齢者福祉」「福祉心理学」「障害者福祉」の６科目を扱う。

［授業の方法および概要］

到達目標に沿って、指定科目の客観式レポート課題及び記述式レポート課題の作成を進める。必要に応じて、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。

［授業の到達目標］

・指定科目のレポート課題を期限までに作成、提出することができる。
・個々の指定科目について、その科目を修得したと認められる事項を説明できる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・到達目標の修得状況を測るために、指定科目のレポート課題の状況について、ルーブリックによる累計考査を実施する。
・平常点(25％)
　・大学のレポート課題を期限までに提出している。
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座［共通科目］11ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門)』中央法規出版、2021年
・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座［共通科目］13ソーシャルワーク演習（共通科目)』中央法規出版、2021年
・福祉臨床シリーズ編集委員会編『新・社会福祉士シリーズ15児童・家庭福祉【第2版】』弘文堂、2025年
・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座２高齢者福祉 第２

版』中央法規出版、2025年
・小松紘・木村進・渡部純夫・皆川州正編著『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学 改訂版』八千代出版、2019年
・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座［共通科目］８障害者福祉 第２版』中央法規出版、2025年

［備考］

［授業計画（内容）］	
1～2	前期授業オリエンテーション
3～8	ソーシャルワーク演習に関する基礎知識
9～14	ソーシャルワーク演習レポート１単位め（事前課題）作成指導
15～20	ソーシャルワーク演習レポート２単位め（事後課題）作成指導
21～28	児童・家庭福祉に関する基礎知識
29～30	児童・家庭福祉レポート１単位め（客観式）実施指導
31～38	児童・家庭福祉レポート２単位め（論述式）作成指導
39～46	ソーシャルワークの基盤と専門職に関する基礎知識
47～48	ソーシャルワークの基盤と専門職レポート１単位め（客観式）実施指導
49～55	ソーシャルワークの基盤と専門職レポート２単位め（論述式）作成指導
56～62	高齢者福祉に関する基礎知識
63～64	高齢者福祉レポート１単位め（客観式）実施指導
65～72	高齢者福祉レポート２単位め（論述式）作成指導
73～74	福祉心理学に関する基礎知識
75～81	福祉心理学レポート１単位め（客観式）実施指導
82～90	福祉心理学レポート２単位め（論述式）作成指導
91～98	東北福祉大学通信教育部スクーリング受講① 「児童・家庭福祉」
99～106	東北福祉大学通信教育部スクーリング受講② 「ソーシャルワーク演習」
107～114	東北福祉大学通信教育部スクーリング受講③ 「障害者福祉」

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	
レポート指導	演習	必修　選択
［対象学科・学年・時期］		［授業回数・時間数］
社会福祉科　２年　　前期　後期　通年		８３回　１６６時間

［担当教員および実務経験］

櫛野友則・佐藤千香・白倉啓子・星野和幸

［授業の目的］

ソーシャルワークの専門職である社会福祉士に必要とされる知識を獲得するために、東北福祉大学通信教育部の規定に基づき、社会福祉士養成課程の指定科目の単位修得を目指す。本科目では「ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）」「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」「障害者福祉」「社会福祉原論Ａ」の４科目を扱う。

［授業の方法および概要］

到達目標に沿って、指定科目の客観式レポート課題及び記述式レポート課題の作成を進める。必要に応じて、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。

［授業の到達目標］

・指定科目のレポート課題を期限までに作成、提出することができる。
・個々の指定科目について、その科目を修得したと認められる事項を説明できる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・到達目標の修得状況を測るために、指定科目のレポート課題の状況について、ルーブリックによる累計考査を実施する。
・平常点(25％)
　・大学のレポート課題を期限までに提出している。
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座［共通科目］11ソーシャルワークの基盤と専門職（共通・社会専門）』中央法規出版、2021年
・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座［共通科目］12ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規出版、2021年
・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座［共通科目］８障害者福祉 第２版』中央法規出版、2025年

・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座［共通科目］４社会福祉の原理と政策』中央法規出版、2021年
［備考］

［授業計画（内容）］	
1～2	後期授業オリエンテーション
3～10	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）に関する基礎知識
11～12	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門） レポート１単位め（客観式）実施指導
13～21	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門） レポート２単位め（論述式）作成指導
22～30	ソーシャルワークの理論と方法Ｉに関する基礎知識
31～32	ソーシャルワークの理論と方法Ｉレポート１単位め（客観式）実施指導
33～40	ソーシャルワークの理論と方法Ｉレポート２単位め（論述式）作成指導
41～48	障害者福祉に関する基礎知識
49～50	障害者福祉レポート１単位め（客観式）実施指導
51～57	障害者福祉レポート２単位め（論述式）作成指導
58～65	社会福祉原論Ａに関する基礎知識
66～67	社会福祉原論Ａレポート１単位め（客観式）実施指導
68～75	社会福祉原論Ａレポート２単位め（論述式）作成指導
76～83	東北福祉大学通信教育部スクーリング受講① 「社会福祉原論A」

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
メンタルヘルス	講義	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　２年　　前期　後期　通年	３０回　６０時間

［担当教員および実務経験］

井畑　友佳

［授業の目的］

・最近社会問題となっている職場におけるメンタルヘルスケアの問題について、メンタルヘルスケアおよびストレスの知識、対処方法を学ぶ。

・大阪商工会議所「メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅲ種」の合格を目指す。

［授業の方法および概要］

・授業前に事前課題を課し、基礎的事項を確認する。

・授業中は、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。

・各章終了ごとに確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。

・検定直前は、複数回の問題演習を通して、知識の定着を図る。

［授業の到達目標］

・労働者のストレスの現状と職場におけるメンタルヘルスケアについて理解できる。

・ストレスとストレスによる健康障害について説明することができる。

・メンタルヘルス不調の代表的な症状について説明することができる。

・心の健康問題についての正しい知識を説明できる。

・自己保健義務、気づき方、早期対処、軽減方法等、自分自身のメンタルヘルスを守る知識について説明することができる。

・相談機関等、利用できる資源・職種について説明することができる。

・メンタルヘルスの治療方法および留意点について説明することができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)

　・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験による確認テストを実施する。

・平常点(25％)

　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・大阪商工会議所『メンタルヘルス・マネジメント検定試験公式テキスト〔第５版〕Ⅲ種セルフケアコース』中央経済社、2021年

［備考］

・メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅲ種［セルフケアコース］を受験する。

［授業計画（内容）］	
1	第１章　メンタルヘルスケアの意義①
2	第１章　メンタルヘルスケアの意義②
3	確認テスト①
4	第２章　ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識①
5	第２章　ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識②
6	第２章　ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識③
7	第２章　ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識④
8	確認テスト②
9	第３章　セルフケアの重要性①
10	第３章　セルフケアの重要性②
11	確認テスト③
12	第４章　ストレスへの気づき方①
13	第４章　ストレスへの気づき方②
14	第４章　ストレスへの気づき方③
15	確認テスト④
16	第５章　ストレスへの対処、軽減の方法①
17	第５章　ストレスへの対処、軽減の方法②
18	第５章　ストレスへの対処、軽減の方法③
19	第５章　ストレスへの対処、軽減の方法④
20	第５章　ストレスへの対処、軽減の方法⑤
21	確認テスト⑤
22	第６章　社内外資源の活用①
23	第６章　社内外資源の活用②
24	第６章　社内外資源の活用③
25	第６章　社内外資源の活用④
26	確認テスト⑥
27	問題演習（検定対策）①
28	問題演習（検定対策）②
29	問題演習（検定対策）③
30	問題演習（検定対策）④

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
総合復習	講義	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　２年　　前期　後期　通年	１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

星野　和幸

［授業の目的］

２年間で学んだ教科を中心に国家試験に関わる基礎的知識の習得を目指す。

［授業の方法および概要］

到達目標に沿って、グループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。

［授業の到達目標］

・次の各項目について国試の受験科目の必要な知識を習得できる。

①社会福祉　②高齢者福祉　③障害者福祉　④児童・家庭福祉　⑤心理

⑥ソーシャルワーク

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)

・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験による確認テストを実施する。

・平常点(25％)

・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・いとう総研資格取得支援センター編『社会福祉国試ナビ2026』中央法規出版、2025年

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	社会福祉（社会福祉法）
2	高齢者福祉①（老人福祉法）
3	高齢者福祉②（介護保険法①：保険者、被保険者、要介護認定）
4	高齢者福祉③（介護保険法②：保険給付、地域支援事業）
5	確認テスト①
6	障害者福祉①（障害者の定義、障害者基本法をはじめとする各種法律）
7	障害者福祉②（障害者総合支援法）
8	児童・家庭福祉①（児童福祉法、子ども・子育て支援法）
9	児童・家庭福祉②（母子及び父子並びに寡婦福祉法）
10	確認テスト②
11	心理①（学習、記憶、欲求・動機、ストレス）
12	心理②（適応機制、心理療法）
13	ソーシャルワーク①（社会福祉士の定義、相談援助の理論）
14	ソーシャルワーク②（ソーシャルワークの歴史）
15	確認テスト③

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
ソーシャルワーク演習	演習	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　２年　　前期　後期　通年	１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

櫛野　友則

［授業の目的］

ソーシャルワーク実習における理論や専門知識を学習する。内容はソーシャルワークの倫理綱領、相談援助技術、ソーシャルワークの展開過程など、ソーシャルワーク実習の事前準備に沿うものとする。

［授業の方法および概要］

授業ごとに到達目標を設定し、授業の方向性を明確にする。アクティブラーニングを中心にグループワーク、ロールプレイなどを実施する。知識を体感することを中心とし、細かい振り返りを実施することによってソーシャルワーク実習で必要となる知識を固着化させる。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。

［授業の到達目標］

１）社会福祉士に求められる役割、視点、モデル、アプローチなどソーシャルワークの枠組みが説明できる。
２）社会福祉専門職としての「自己」について、自己覚知を通して客観的な視点から説明できる。
３）社会福祉の倫理、価値規範について説明できる。
４）言語的、非言語的コミュニケーションの基礎を身につけ、基本的な面接技術を学習の場で実践できる。
５）相談援助の過程について事例を通して具体的にイメージすることができ、説明できる。
６）相談援助の基盤と専門性について説明できる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・到達目標の修得状況を測るために、確認テスト（筆記試験・実技試験）を実施する。
・平常点(25％)
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座［共通科目］13ソーシャルワーク演習（共通科目）』中央法規出版、2021年

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	オリエンテーション、社会福祉士の役割
2	自己覚知
3	日本ソーシャルワーカー連盟の倫理綱領
4	確認テスト① 人と環境の交互作用
5	面接技法
6	ソーシャルワークの原理・原則
7	確認テスト② ソーシャルワークの発展過程①（ケース発見とエンゲージメント）
8	ソーシャルワークの発展過程②（フェイスシート、アセスメント表）
9	ソーシャルワークの発展過程③（エコマップ・ジェノグラム）
10	ソーシャルワークの発展過程④（ニーズ整理表）
11	確認テスト③
12	ソーシャルワークの発展過程⑤（支援計画の作成）
13	ソーシャルワークの発展過程⑥（モニタリング）
14	ソーシャルワークの発展過程⑦⑧（再アセスメント・終結）
15	確認テスト④

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	
社会活動	実習	必修　選択

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年・２年　前期　後期　通年	１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

櫛野　友則

星野　和幸

［授業の目的］

１．学生自身が自ら行動することの意義を知り、地域の現状や課題に対して積極的に取り組む行動力を育む。

２．チーム活動を通じて、主体性と協調性の重要性を学び、チームの一員としてチームに貢献できる人材に成長する。

３．社会の現状や課題の実際を知り、社会への問題意識や批判的な思考力（クリティカルシンキング）を身に付け、社会性を確立する。

［授業の方法および概要］

１．チーム活動を円滑に実施するために、ファシリテーションについて学ぶ。

２．地域踏査を通じて学校周辺の地域の実情や特徴をつかむ。

３．チームを組んで、地域の実情や課題を知るための活動を行う。

４．活動後の振り返りを通して効果測定を行う。合わせて、他チームとも共有する。

［授業の到達目標］

１．ファシリテーションの概要を説明できる。

２．地域の特徴を説明することができる。

３．チームの一員として貢献することができる。

４．活動の結果を振り返り、まとめることができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)

　・到達目標の修得状況を測るために、課題提出により累積考査を実施する。

・平常点(25％)

　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

　・チームの一員として主体的かつ積極的に活動に参加し、チームに貢献している。

［使用テキスト・参考文献］

なし

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	オリエンテーション ファシリテーション
2	地域踏査①
3	地域踏査②
4	地域踏査③
5	地域踏査の共有
6	チーム編成、活動の検討、活動計画作成
7	チーム活動①
8	チーム活動②
9	チーム活動③
10	チーム活動④
11	チーム活動⑤
12	チーム活動⑥
13	チーム活動⑦
14	チーム活動まとめ
15	チーム活動発表

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
社会活動	実習	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年・２年　　前期　後期　通年	１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

櫛野　友則

星野　和幸

［授業の目的］

１．学生自身が自ら行動することの意義を知り、地域の現状や課題に対して積極的に取り組む行動力を育む。

２．チーム活動を通じて、主体性と協調性の重要性を学び、チームの一員としてチームに貢献できる人材に成長する。

３．社会の現状や課題の実際を知り、社会への問題意識や批判的な思考力（クリティカルシンキング）を身に付け、社会性を確立する。

［授業の方法および概要］

１．地域踏査を通じて学校周辺の地域の実情や特徴をつかむ。

２．チームを組んで、地域の実情や課題を知るための活動を行う。

３．活動後の振り返りを通して効果測定を行う。合わせて、他チームとも共有する。

［授業の到達目標］

１．地域の特徴を説明することができる。

２．チームの一員として貢献することができる。

３．活動の結果を振り返り、まとめることができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)

　・到達目標の修得状況を測るために、課題提出により累積考査を実施する。

・平常点(25％)

　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

　・チームの一員として主体的かつ積極的に活動に参加し、チームに貢献している。

［使用テキスト・参考文献］

なし

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	前期の活動の振り返り チーム再編成 活動計画作成
2	チーム活動①
3	チーム活動②
4	チーム活動③
5	チーム活動④
6	チーム活動⑤
7	チーム活動⑥
8	チーム活動⑦
9	チーム活動⑧
10	チーム活動⑨
11	チーム活動⑩
12	チーム活動⑪
13	チーム活動⑫
14	チーム活動まとめ
15	チーム活動発表